



地域の安心安全に女性の視点を生かす

8月21日、消防本部で工藤市長と今年4月に本市で初めて任用された女性消防団員による懇談会が行われました。

女性消防団員の皆さんは、工藤市長に入団の動機やこれまでの活動状況などを報告。工藤市長から「女性の視点を生かした新しい活動で、誰もが安心安全に暮らせる地域社会を築いてほしい」と激励の言葉を受け、団員の皆さんは「日々の活動で、さらなる知識や技術の習得に励みたい」とこれからの抱負を語りました。



幻想的な演舞を披露

9月14日、久伊豆神社で長野の獅子舞の演舞が披露されました。

長野の獅子舞は、正徳3年(1713)に久伊豆神社に奉納されたと伝えられており、今年で300年を迎えます。奉幣使の行列が終了した後、ライトアップされた境内で勇壮で迫力のある演舞を披露。会場を訪れた方は幻想的な雰囲気の中で行われた演舞を堪能していました。

本市を代表する貴重な民俗芸能「獅子舞」。これからも後世に引き継がれていくことでしょう。



一秒でも速く、そして正確に

9月8日、消防本部訓練場で第41回行田市消防団消防操法大会が行われました。

この大会は、消防訓練の基本的な器具操作・動作の速さと正確さを競うもの。出場する選手たちは上位入賞を目指して連日・連夜練習に汗を流してきました。

大会当日、時折激しい雨が降る中でも選手たちは迅速かつ正確な操作を披露。この大会を通じて、団員らはさらに絆を深めることができたようです。



みんなでお料理 楽しいな

8月24日、VIVAぎょうだ調理室で「親子で作って楽しく学ぼう!食育ってなあに?」が行われました。

この日作った料理は、にんじんおにぎり・ホイールハンバーグ・ごろごろサラダ・ミルクかんの4品。行田市食生活改善推進員の指導の下、子供たちは積極的に包丁で食品を切ったり、盛り付けをしたりと料理を楽しんでいました。この催しに参加した親子は、健康に良い食べ物を選び、バランスよく食べることの大切さを学ぶことができました。



忍城おもてなし甲冑隊が取材を受けました

9月10日、忍城址で忍城おもてなし甲冑隊が海外メディアから取材を受けました。行田が誇る戦国武将たちのいであとに、メディアスタッフも興味津々。取材のために特別に行われたユニークな寸劇に、撮影会場は大いに盛り上がりました。

これからも甲冑隊は、行田市のPRに欠かせない存在として大いに活躍することでしょう。皆さんもぜひ、甲冑隊に会いに来てみてはいかがでしょうか。



地域防災の新たな担い手として

9月14日、行田グリーンアリーナ研修室およびアリーナ前広場で、「行田市ジュニア防災訓練」が実施されました。

基礎体力が備わっている中学生以上の生徒を対象にしたこの訓練。この日は、行田市ジュニアリーダーズクラブに所属する生徒が、身近に潜む危険箇所の説明を受けたり、発動発電機の使用訓練や初期消火訓練を行ったりしました。真剣なまなざしで訓練に臨む生徒たち。平日昼間の時間帯に大規模災害が発生した際には、仕事などで不在の大人たちに代わって、新たな地域防災の担い手として活躍することが期待されます。



南国ムードに包まれて

9月1日、「みらい」文化ホールで「ハワイアンフェスティバルin行田2013」が行われました。

この催しに市内外から26グループが参加し、優雅で華麗なフラダンスやタヒチアンダンスを披露しました。華やかな衣装を見にまとった出演者が、楽しく、美しくそして生き生きと踊ると会場は一気に南国ムードに包まれました。パフォーマンスを見た観客誰もが、南国気分を味わっていました。



応急手当の指導方法を習得

8月20日から22日までの3日間、消防本部で市内の小・中学校の教職員と女性消防団員を対象にした応急手当普及員講習会が行われました。

この講習は、応急手当の手法を教えることのできる「応急手当普及員」を養成するものです。救急救命士のアドバイスを受けながら、実践的にAEDを用いた心肺蘇生法の指導方法などを学んだ参加者たち。救命技能を正確に伝える難しさを感じながらも、「分かりやすい説明を心掛けよう」という熱意を持って講習会に臨んでいました。

